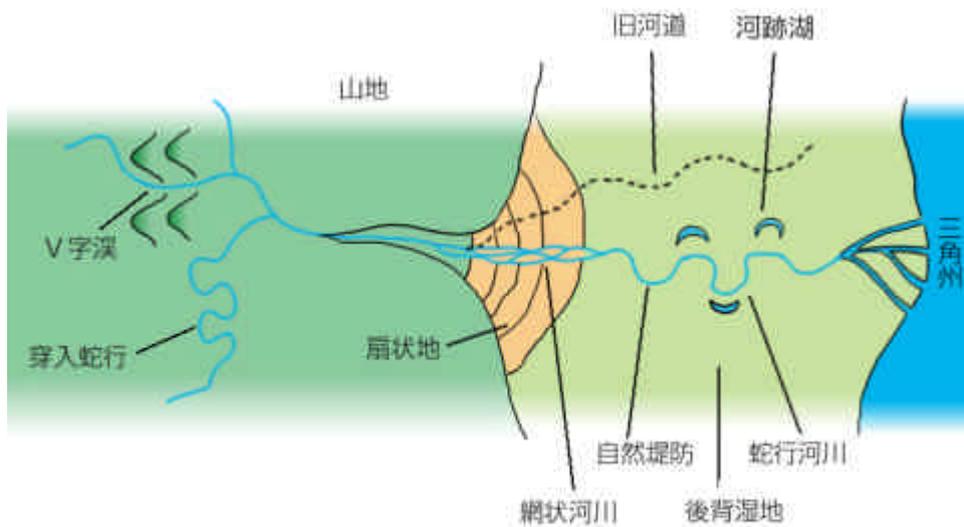


### 1 - 3 川の流れによって様々な地形が出来上がる

川は地表面に対して、侵食、運搬、堆積の3つの作用を通して働きかけ、さまざまな特徴を持った地形を作り出します。

大まかにみると、川の上流部は河床勾配が急で流速も大きいいため、侵食および運搬作用が堆積作用よりも大きく働きます。中流および下流になると逆に、侵食作用および運搬作用よりも、堆積作用の方が大きく働きます。そのため、深い渓谷、滝や早瀬は上流部にみられ、中流部では谷もやや開けて谷底平野や河岸段丘が形成され、下流部では扇状地、三角州、氾濫原などが形成されます。



(「川のなんでも小事典」講談社)を基に作成

#### 川の形の変化

V字峽 (V字谷) : 横断面がV字形の河谷。側刻よりも下刻が著しい河川がつくった谷底の狭い谷。

せんにゅうだこう  
穿入蛇行 : 蛇行状に屈曲する谷の中を流れる河川を指す。

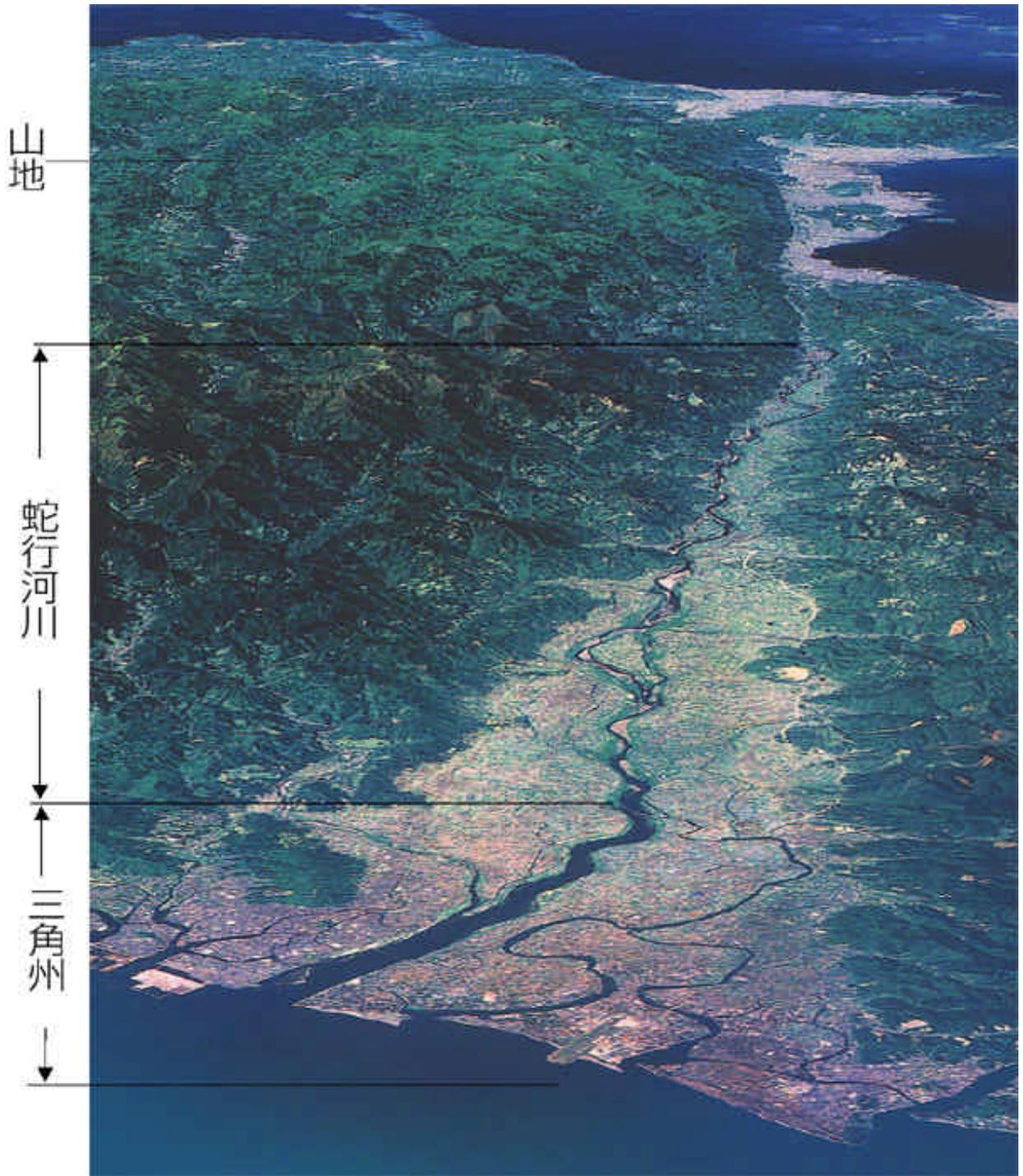
扇状地 : 河川が形成した、谷口を扇頂とする半円錐状の堆積地形。

後背湿地 : 氾濫原上で自然堤防の背後にできる沼沢性の低湿地。氾濫原とは、山地や台地などさまざまな高度の河谷中に、洪水の浸水によって生じた緩やかな勾配の土地

自然堤防 : 氾濫原中を普段の水位で流れている水路 (常水路) の両側に洪水時の堆積作用によりできた微高地。

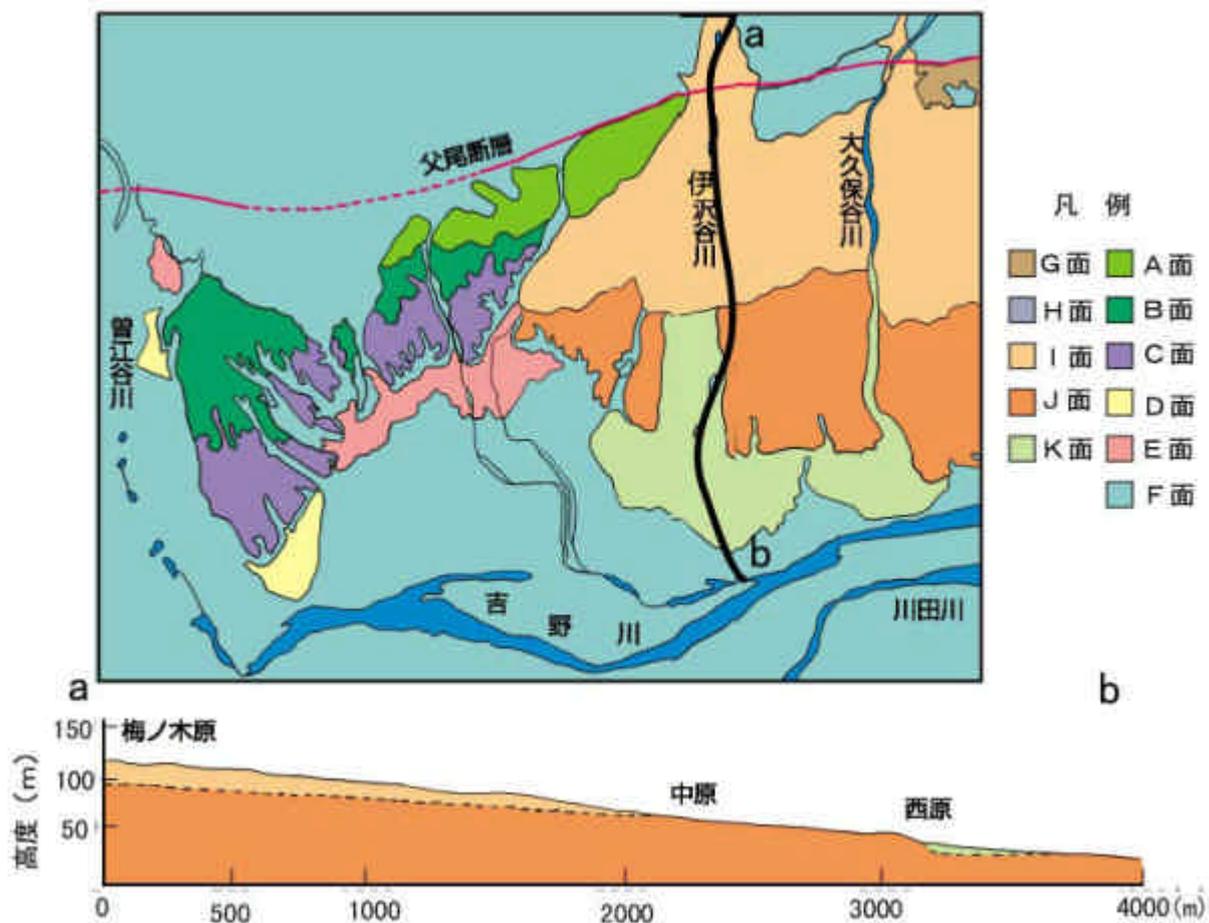
三角州 : 河川が運搬・搬出する堆積物が、湖や海などの静水域に堆積してつくられる低平な堆積地形。

河跡湖 : 河川の流路の一部が流路から切り離されて湖になったもの。蛇行河川の切断によって生ずる三日月湖はその代表的な例。



上空からみた吉野川流域

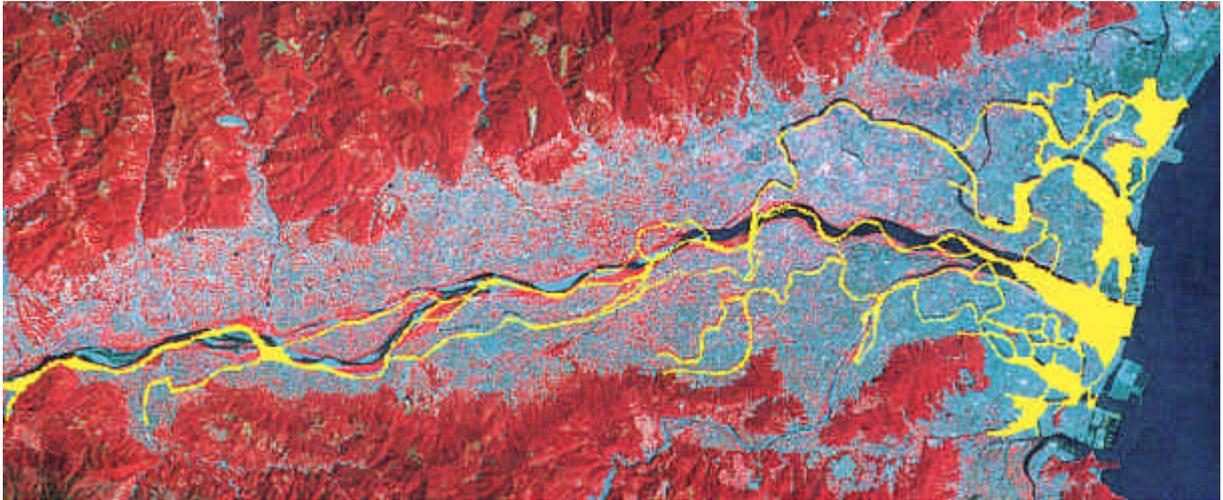
河口部に三角州が広がっています。三角州の上流には、自然堤防や後背湿地が広がっています。讃岐山脈から吉野川に流れ込む支川は、丘陵から徳島平野に流れ出てくるところで、扇状地をつくっています。



(「自然の歴史シリーズ 徳島 自然の歴史」, コロナ社)を基に作成  
徳島平野にみる扇状地

伊沢谷川周辺(阿波町)の扇状地を見てみましょう。地表面は、AからKまでの面に区分することができます。伊沢谷川に沿って垂直に切った断面を見ると、J面、K面、I面の順番に堆積したと考えられます。

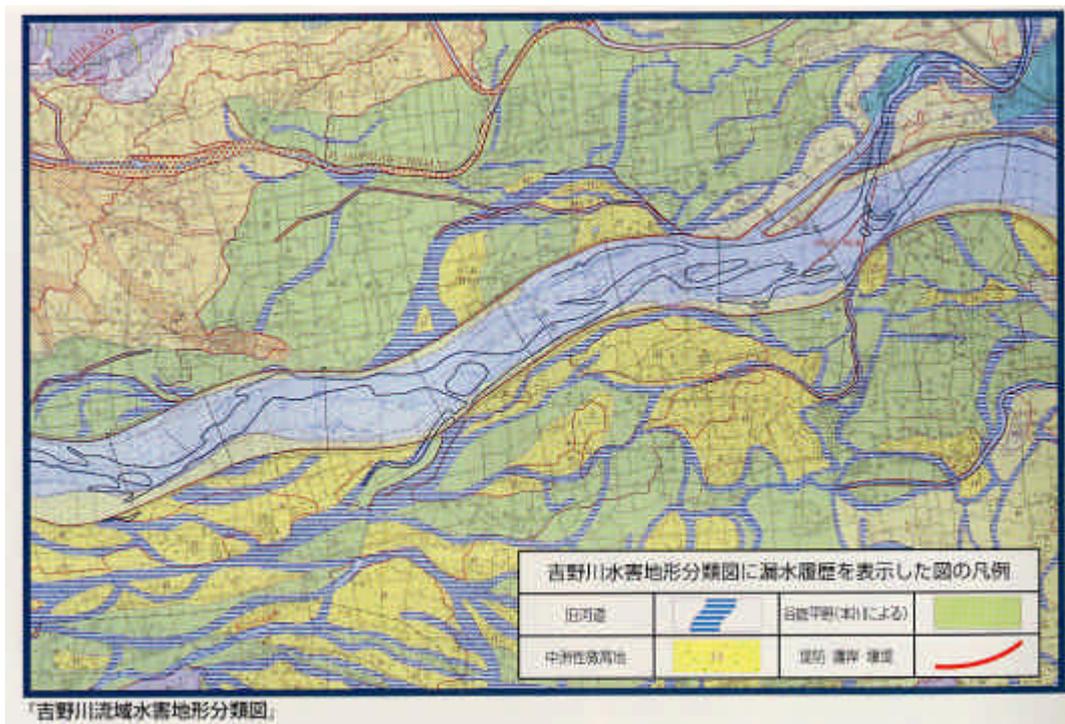
吉野川も流れる場所を変えています。下の図は、現在の吉野川と、江戸時代の吉野川とを比較した図です。黄色に着色した部分が江戸時代の吉野川です。



出典：「四国三郎物語」、徳島工事事務所

### 吉野川の河道の変化

「吉野川流域水害地形分類図」をみると、徳島平野はいたるところ、かつて河道であったがわかります。



出典：「四国三郎物語」、徳島工事事務所

### 吉野川流域水害地形分類図

今の江川は、かつては吉野川でした。

もう少し上流の岩津に行くと、讃岐山脈から流れ出た曾江谷川や伊沢谷川などがつくった扇状地によって、吉野川が次第に四国山地へ押し付けられてきた痕跡が残っています。



岩津

岩津の上空から、吉野川の下流方向を写した写真を見ると、低平地が広がっています。この低平地は、吉野川によってできたものです。つまり、吉野川は、今よりももっと北側を流れていたのです。もともと岩津は、南の四国山地と陸続きだったのです。

県道鳴門池田線沿いに、赤子池や浦池、菖蒲池など、小さな池があるのは、昔、吉野川がここを流れていた名残です。このような池を河跡湖と呼びます。



出典：「四国三郎物語」、徳島工事事務所

赤子池

また、山川町や石井町にも、吉野川が今よりも南を流れていた痕跡が残っています。川島町にも森池と呼ばれる河跡湖が、石井町にも桜間の池と呼ばれる河跡湖があります。いずれも今の吉野川よりも南側にあります。



出典：「四国三郎物語」、徳島工事事務所  
森池（川島町）



出典：「四国三郎物語」、徳島工事事務所  
桜間の池（石井町）

山川町には岩戸の甌穴が吉野川の南側にあります。この穴は、川底の石に川の流れが作用して、渦状に岩を侵食した跡です。



出典：「四国三郎物語」、徳島工事事務所  
岩戸の甌穴

もっと上流に行くと、舞中島や中島島などのように、島状の地形があります。吉野川が流路を変えたため、このような地形が出現しました。舞中島、中島島ともに、もともとは四国山地と連続していました。



舞中島



中島・西島